

令和2年度 特別推薦入試試験問題（第二部商経学科） 解答例

問1（40点）

【採点のポイント】

- ・「三歳児神話」の内容が適切に説明されているか。
- ・筆者の考えに即したまとめになっているか。
- ・論理的に考えを記述できているか。

【解答例】

「三歳児神話」とは、「子どもは三歳までは、常時家庭において母親の手で育てないと、子どものその後の成長に悪影響を及ぼす」という考えであり、主に出産年齢の若年の女性に、退職による専業主婦化と子育て専念を奨励する考えである。それが広まった1960年代には、欧米での研究に基づき、合理性があるものとされ、大きな社会的影響を持ったが、その後の研究を通じて、今日では合理的な根拠は認められないものとされており、いわゆる「神話」＝迷信だとみなされている。

筆者は、女性労働者の早期退職と育児後の非正規労働者での再雇用から生まれる女性就業のM字型カーブは、企業が女性を労働力の需給調整が容易な低賃金労働力として利用してきた結果であると考えるので、三歳児神話がM字型カーブの根本原因ではないと考えるが、三歳児神話がM字型カーブを生み出すような働かせ方を肯定し、温存する役割をはたしてきたことは否定できないと考えている。

(392字)

問2（60点）

【採点のポイント】

- ・厚生労働省の指摘が反映されているか。
- ・有効と考えられる対策が指摘されているか。
- ・論理的に考えを記述できているか。

【解答例】

厚生白書は、子育てに孤立した専業主婦が、子ども中心の生活の中で、自分の時間がないなどのストレスをためたり、子育ての責任の重圧の中で育児ノイローゼとなったりするという問題を指摘している。また、それと並んで、そのような母子が密着しすぎる環境は、子どもを構い過ぎたり、期待をかけ過ぎたりすることで、子どもの成長にかえって悪影響をあたえるという、問題を指摘している。

以上の指摘から考えられる対策は、弊害の根本原因となっている、女性に孤立的な子育てを押しつけている環境を変えることである。その対策の第一は、「男が稼ぎ、女が家庭を守る」という家族意識を変えることである。女性の社会参加、男女同権思想を社会に浸透させる努力が必要である。第二は、女性の就業の継続を当然の前提とし、したがって、家事・育児・介護などをパートナーが適切に分担することである。しかし、パートナーが協力し合うためには、家事の時間が両

者に保障されなければならない。そのためには男性の育児休業取得率の増加や長時間労働の規制、大幅な労働時間短縮などが必要である。第三に、女性の無理のない就業を保障するために、育児・介護を補助する社会環境作りが大切で、乳幼児の保育制度や、学童保育制度、その他の社会福祉制度の充実が求められる。

(538 字)